

根 室 市 地域経済分析

平成27年6月29日

第1章 根室市の経済状況

1 【根室市の人口】・・・人口減少/少子高齢化の進行

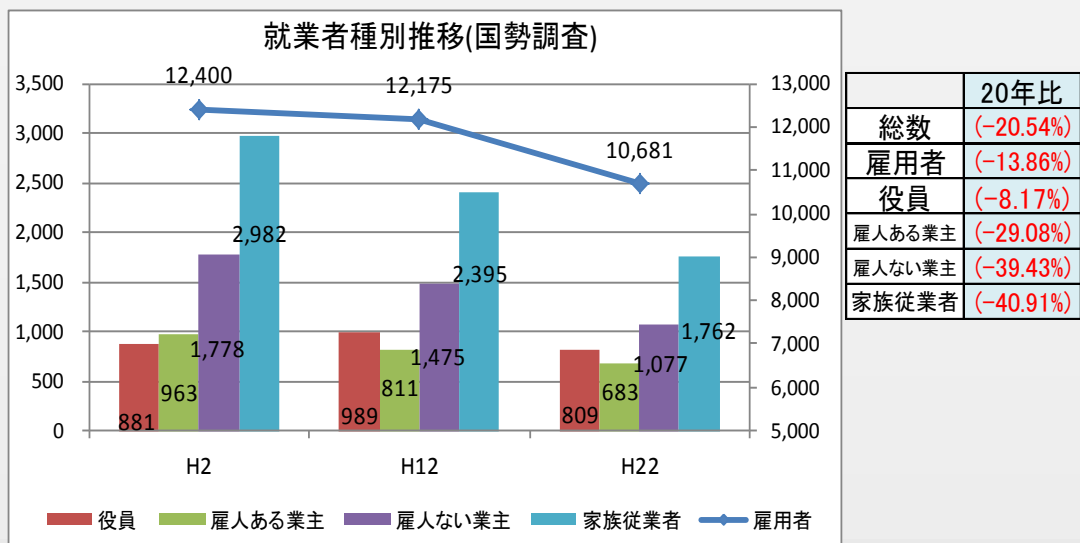
- ピーク時5万人弱の人口が平成22年には3万人を下回る ⇒ (人口減少)
- 20年間で15歳未満の若い世代は半減 ⇒ (出生者の減少)
- 逆に65歳以上の高齢者が88%増加 ⇒ (少子高齢化の進行)
- 働き手となる生産人口(15～64歳)の減少が加速 ⇒ (労働力人口の減少)

2 【根室市の就業者】・・・第1次産業/家族経営事業者の減少

- 人口減に対し、H12～22年の減少率が高い ⇒ (少子高齢化の加速)
- 高齢者人口の増加率に比べ高齢就業者の増加率が低い ⇒ (労働力の低下)
- 第1次産業の減少率が他産業に比べ高い ⇒ (農業、漁業従事者の減少)
- 第2次第3次産業もH12～22の10年で大きく減少 ⇒ (人口減。特に生産人口減の影響)
- 就業者種別では雇わない業主と家族従業員が約4割減少
↳ 家族経営自営業者等の減少 ⇒ (農家、漁家、商店等の減少)

【人口】	20年前		増減率	10年前		増減率	現在		20年比	総数
	H2			H12			H22			
総数	36,912		(-10.19%)	33,150		(-11.91%)	29,201		(-20.89%)	総数
0～14歳	7,342		(-30.81%)	5,080		(-29.82%)	3,565		(-51.44%)	0～14歳
15～64歳	25,450		(-13.19%)	22,093		(-18.98%)	17,899		(-29.67%)	15～64歳
65歳以上	4,120		(+45.07%)	5,977		(+29.36%)	7,732		(+87.67%)	65歳以上

【就業者数】	H2		増減率	H12		増減率	H22		20年比	総数
総数	19,008		(-6.10%)	17,848		(-15.37%)	15,104		(-20.54%)	総数
15～64歳	17,939		(-9.59%)	16,218		(-17.88%)	13,319		(-25.75%)	15～64歳
65歳以上	1,069		(+52.48%)	1,630		(+9.51%)	1,785		(+66.98%)	65歳以上
第1次産業	4,880		(-24.00%)	3,709		(-20.25%)	2,958		(-39.39%)	第1次産業
第2次産業	4,442		(+2.81%)	4,567		(-20.17%)	3,646		(-17.92%)	第2次産業
第3次産業	9,674		(-1.19%)	9,559		(-13.01%)	8,315		(-14.05%)	第3次産業



3 【根室市の産業構造】・・・水産関係が基幹産業

○ 産業別就業者

- ・ 就業者順は、製造業18%、漁業17%、卸売小売業14% ⇒ (3業種で約半数)
- ・ 元々この3業種で市内の半数を占めているが、時代によって順位が変動
↳ 20年前は漁業、10年前は卸売小売業 ⇒ (産業構造の変化)

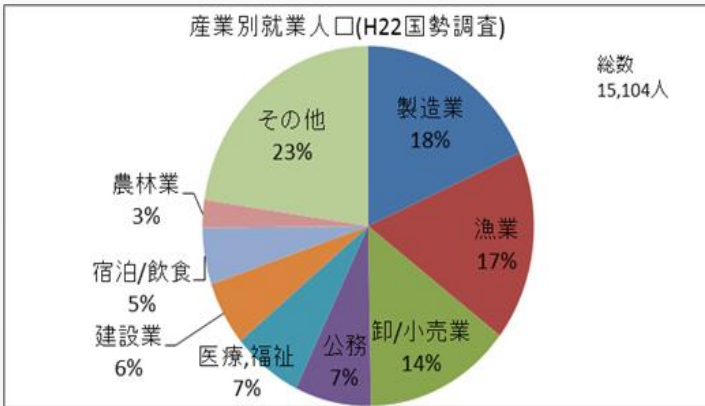
<男女別で最も多い産業>

- ・ 男性就業者 ⇒ 漁業(以前から) ・ 女性就業者 ⇒ 製造業(平成17年以降)

<水産関係就業者>

- ・ 漁業 ⇒ 全て水産関係者
- ・ 製造業 ⇒ 84%が食料品製造業(平成23年工業統計調べ)
- ・ 卸売小売業 ⇒ 43%食料品関係(平成24年経済センサス調べ)
(食料品関係の約3割は水産食料品等の販売に従事している)

※ 根室市の就業者の約3割近くは水産関係に従事している。



【産業別就業者数(国勢調査)】

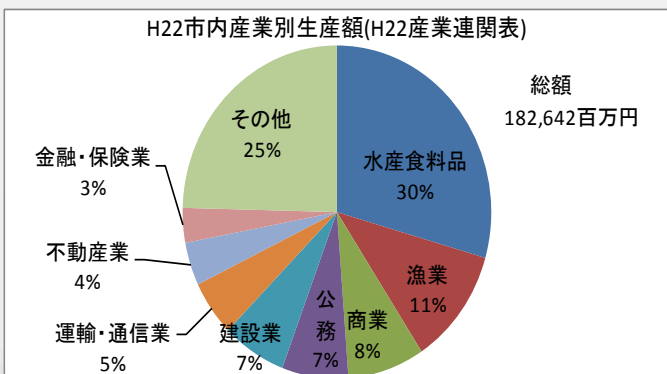
	H2	H12	H22
漁業	4,247	3,275	2,578
製造業	3,090	3,109	2,770
卸小売業	3,677	3,377	2,166
全産業	19,008	17,848	15,104
3業種割合	57.94%	54.69%	49.75%

※H12までは卸小売に飲食店も含む

○ 産業別生産額(平成22年根室市産業連関)

- ・ 生産額順は、水産食料品が全体の30%(製造業の中でも約9割)
↳ 次いで漁業11%、商業8% ⇒ (就業者と同じく3業種で約半数)
- ・ 水産食料品と漁業を合わせ水産関係が市内の域内生産額の4割超

※ 就業者、生産額ともに水産関係が多く占めており、当市の基幹産業といえる。



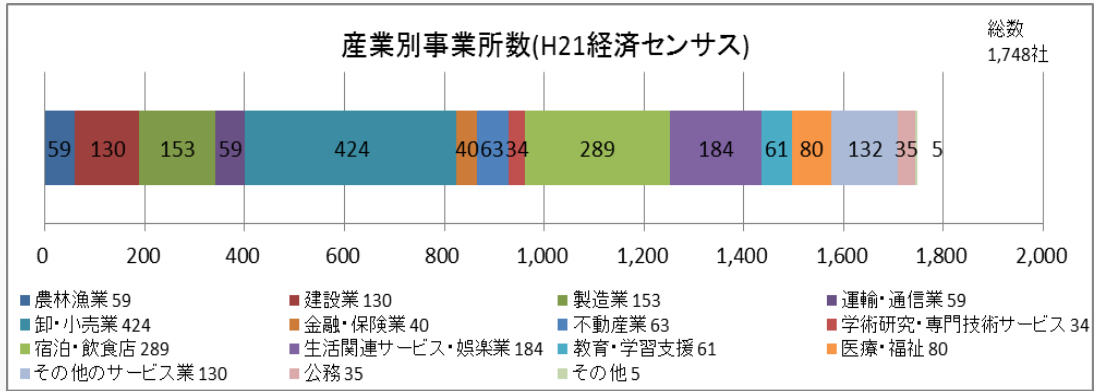
【H22産業連関表】 (百万円)

	製造業内訳	漁業内訳
水産食料品	53,768	沿岸漁業 12,190
と畜・肉・酪農品	1,230	サンマ 5,235
木材木製品	614	サケマス 2,729
その他の食料品	305	沖合漁業 522
その他の製造品	2,880	内水面漁業 15
製造業計	58,797	漁業計 20,691

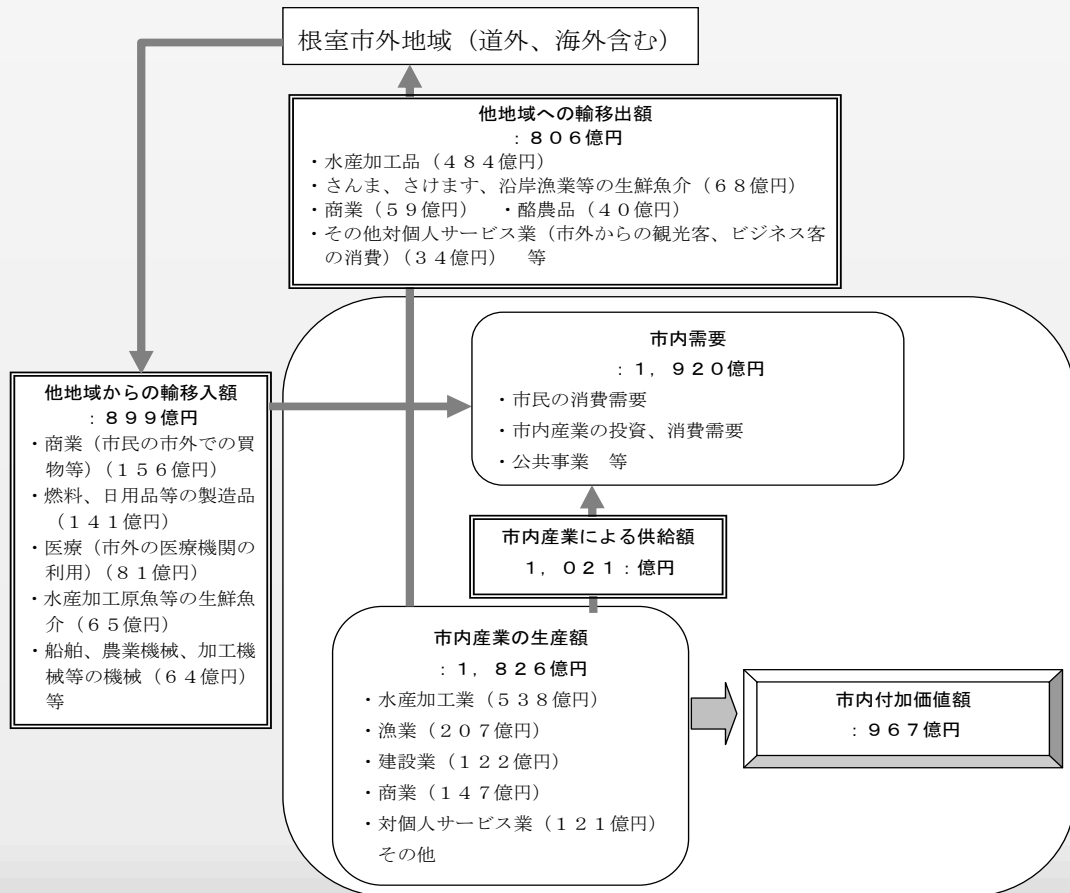
※沿岸にはサケ定置を含む

第1章 根室市の経済状況

- 事業所数（平成21年経済センサス基礎調査）
 - ・ 当市産業別にみる事業所数は、第3次産業、特に商業関係の数が多し
 ↳（しかしながら、当市の事業所の中でも最も減少数が多い産業）
 - ・ 平成3年事業所・企業統計：（商業+飲食店）950店 ⇒ 平成21年は713店
 ↳ 237件減少（個人店が多い業種であり、就業者種別の減少と連動）
 - ・ 商業や飲食店は、比較的若い世代の就業者が多い職種 ⇒（若い世代の流出に繋がる。）



- 根室市産業構造（平成22年根室市産業連関表）
 - ・ 市内産業生産額：1,826億円 ⇒ 水産加工業が約3割となる538億円
 - ・ 域際収支：△93.6億円 = 輸移入：899.1億円 - 輸移出：805.5億円
 - ・ 市内自給率：53.2% ⇒ 供給1,021億円/需要1,920億円 ⇒ 不足分は輸移入



第1章 根室市の経済状況

<輸移入>

- ・ 市民の市外での買物額156億円（自給率36.1%） ⇒ 市内所得の流出
- ・ 市内で生産がない又は生産の少ない産品が多く自給率も低い ⇒ 業種が少なく薄い

<輸移出>

- ・ 市内生産額のうち、水産加工で90%、農業83%を域外へ輸移出している
↳ 水産加工品は484億円で輸移出総額の約6割 ⇒ 外貨獲得の要
- ・ 観光客消費額50億（対個人サービスや飲食等の輸移出） ⇒ 人口減を交流人口で補填

○市内産業自給率38部門(平成22年産業連関表)

(単位:百万円)

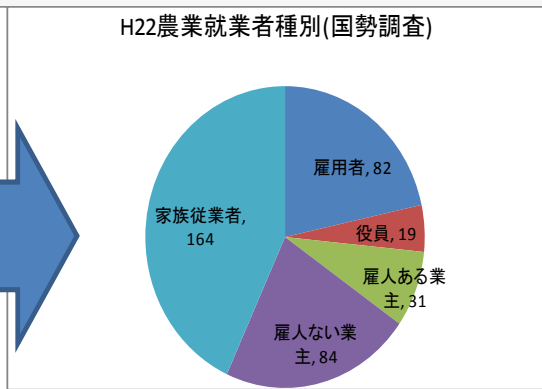
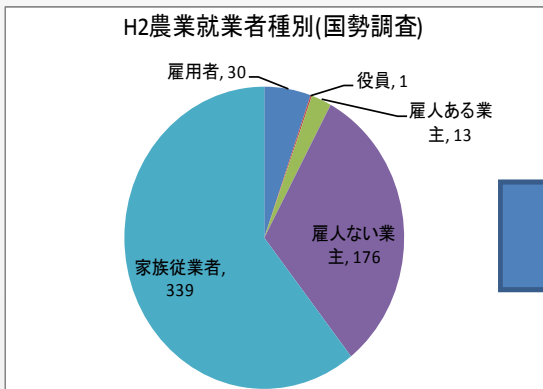
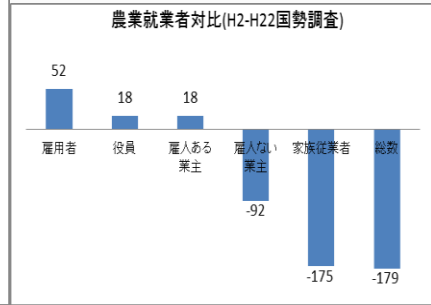
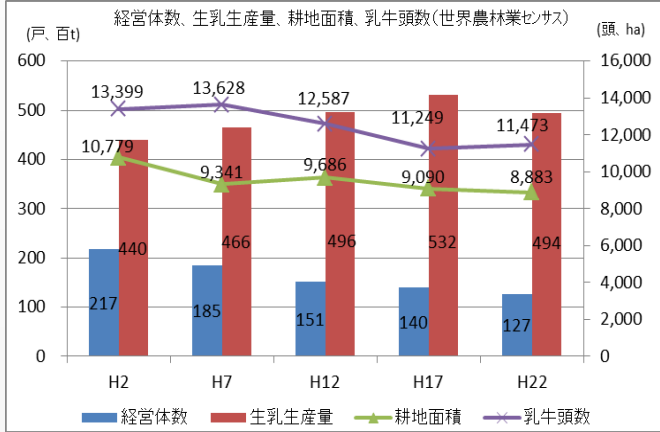
		市内生産額	輸移出	市内供給額	市内需要額	輸移入	市内自給率
1	農 業	4,801	4,002	799	3,523	-2,725	22.7%
2	林 業	30	17	13	219	-206	6.1%
3	沿 岸 漁 業	12,190	1,855	10,335	11,934	-1,598	86.6%
4	沖 合 漁 業	522	205	317	568	-251	55.9%
5	サ ケ マ ス	2,729	1,161	1,568	2,681	-1,113	58.5%
6	サ ン マ	5,235	3,547	1,688	5,128	-3,440	32.9%
7	内 水 面 漁 業	15	2	13	118	-104	11.4%
8	鉱 業	12	4	8	305	-297	2.5%
9	と 畜・肉・酪農品	1,230	676	554	1,163	-610	47.6%
10	水 産 食 料 品	53,768	48,391	5,377	6,953	-1,577	77.3%
11	そ の 他 の 食 料 品	305	214	91	3,724	-3,632	2.5%
12	飲 料 ・ 飼 料	430	215	215	4,547	-4,332	4.7%
13	織 維 製 品	13	8	5	1,968	-1,963	0.3%
14	木 材 木 製 品	614	491	123	673	-551	18.3%
15	家 具 装 備 品	36	0	36	422	-387	8.5%
16	出 版 印 刷	147	7	140	966	-827	14.5%
17	窯 業・土 石 製 品	255	13	242	674	-432	35.9%
18	金 属 製 品	55	11	44	1,555	-1,511	2.8%
19	機 械	121	6	115	6,491	-6,376	1.8%
20	そ の 他 の 製 造 品	1,823	1,775	48	14,172	-14,124	0.3%
21	建 築	8,385	0	8,385	8,385	0	100.0%
22	建 築 補 修	1,105	0	1,105	1,105	0	100.0%
23	土 木	2,750	0	2,750	2,750	0	100.0%
24	電 力 ・ ガ ス	1,835	92	1,743	2,974	-1,231	58.6%
25	水 道 ・ 廃 棄 物	3,929	2,358	1,571	1,855	-284	84.7%
26	商 業	14,684	5,874	8,810	24,404	-15,594	36.1%
27	金 融 ・ 保 険	6,149	1,230	4,919	5,711	-792	86.1%
28	不 動 産	7,659	383	7,276	11,013	-3,737	66.1%
29	運 輸	7,882	788	7,094	8,194	-1,100	86.6%
30	情 報 通 信	1,944	97	1,847	3,197	-1,350	57.8%
31	公 務	12,709	0	12,709	12,709	0	100.0%
32	教 育 ・ 研 究	3,691	185	3,506	7,016	-3,509	50.0%
33	医 療 ・ 保 健 ・ 介 護	5,276	528	4,748	12,800	-8,052	37.1%
34	そ の 他 公 共 サ ー ビ ス	2,558	1,356	1,202	1,377	-175	87.3%
35	対 事 業 所 サ ー ビ ス	5,701	57	5,644	10,140	-4,497	55.7%
36	娛 楽 サ ー ビ ス	1,301	65	1,236	2,154	-919	57.4%
37	飲 食 店	5,025	1,508	3,517	3,999	-481	88.0%
38	そ の 他 対 個 人 サ ー ビ ス	5,728	3,437	2,291	4,435	-2,144	51.7%
	合 計	182,642	80,555	102,087	192,006	-89,919	53.2%

※ 【市内自給率】市内需要額における市内供給額

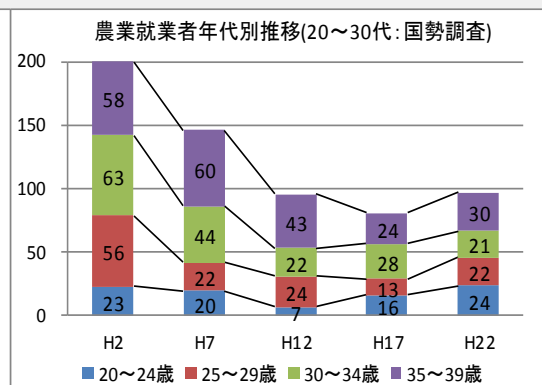
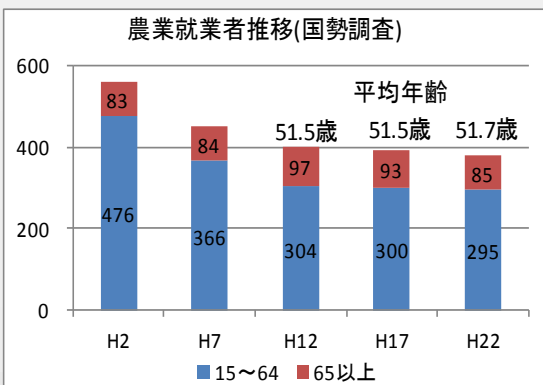
※ 【市内供給額】市内生産額－輸移出額、市内需要額－輸移入額

4 【農業】・・・ 農業従事者の減少

- 農業の約9割が酪農業 ⇒ 主に乳牛を飼育 ⇒ 近年は肉牛も増加
- 20年間で農業従事者は大きく減少 ⇒ (経営体数で約4割、就業者数で約3割減)
 - ↳ ただし、1戸当たりの耕地面積や頭数は増えており、大規模化の傾向
- 家族従業員及び雇わない業主の減少が高い
 - ↳ 家族経営の農家の減少が伺える → (農家戸数の減少)
- 逆に雇用者や役員及び雇人ある業主は増えている → (法人化やヘルパーの活用)



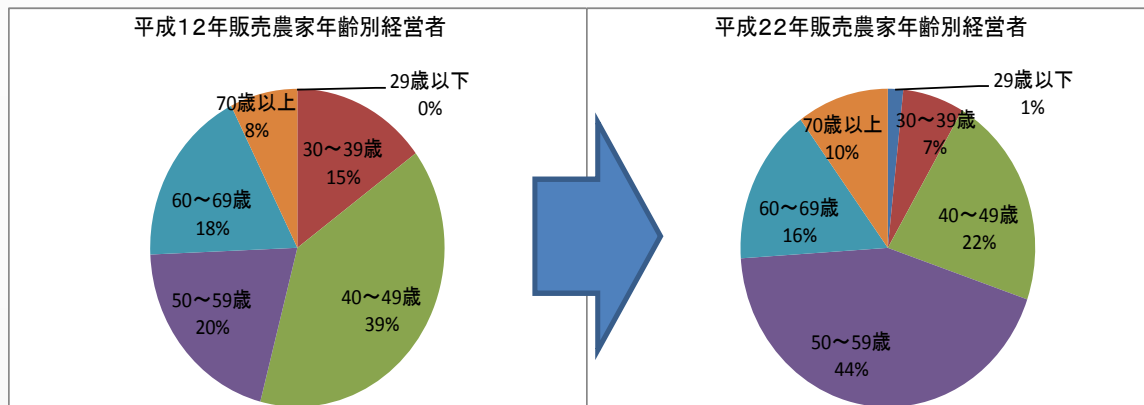
- 就業年齢
 - ・ 就業者は現在も減少を続けているが、近年は下げ止まりの傾向
 - ・ 平均年齢は10年間で僅かに上がっているが、40歳以下の就業者が増えている
 - ↳ 下げ止まりの兆し(雇用者数の増加に関連)



第1章 根室市の経済状況

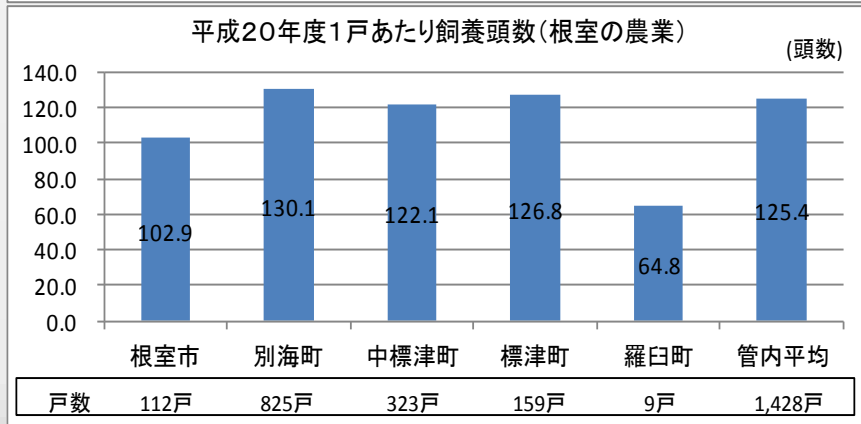
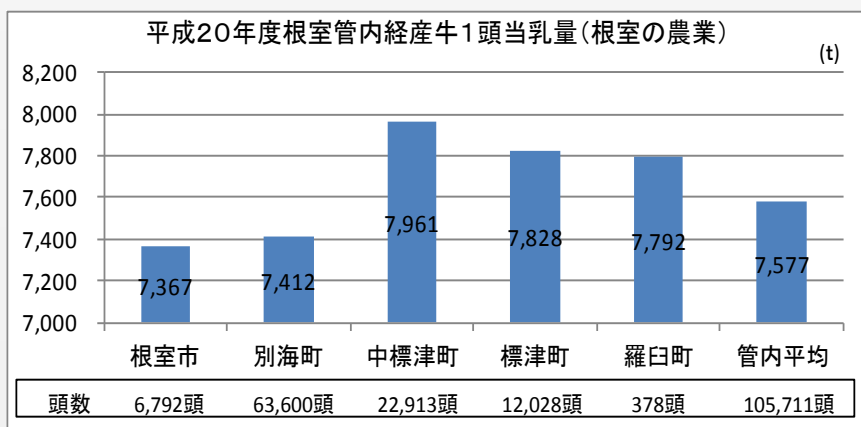
○ 農業経営者年齢（世界農林業センサス）

- ・ 就業者は若い世代が増加傾向にあるが、農業経営者は高齢化が進行している
 - ↳ この10年間で50歳以下の経営者は全体の3割に減少
- ・ 50代及び60代以降ともに38%は後継者がいない（H24年JAアンケート調査）
 - ↳ 今後も農家戸数は減少の傾向（農業生産額にも影響）



○ 酪農経営（平成20年）

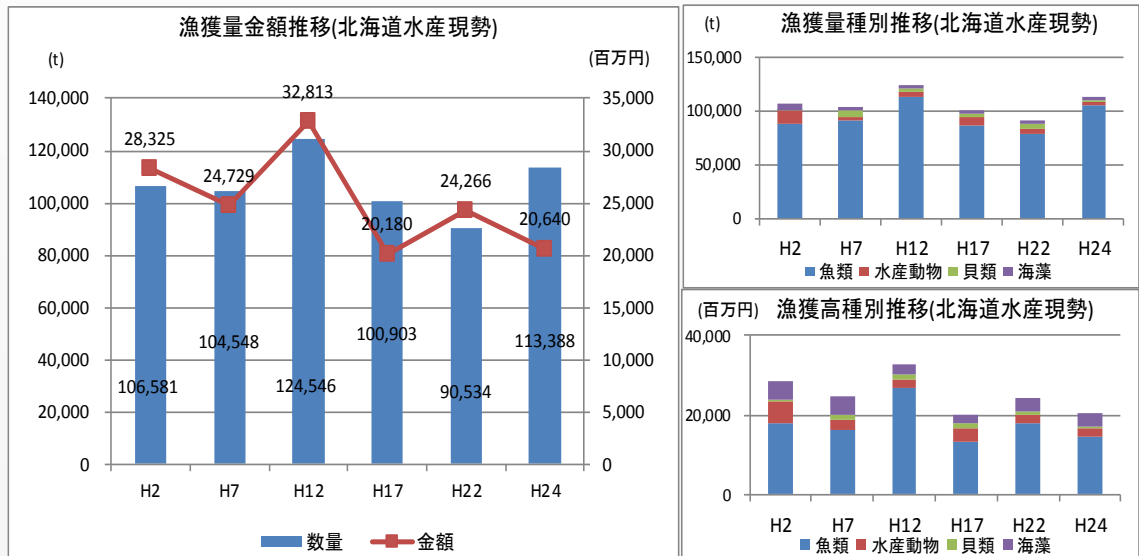
- ・ 1頭当たりの乳量 ⇒ 7,367 t（管内平均を下回っている）
- ・ 1戸当たりの飼養頭数 ⇒ 102.9頭（管内平均を下回っている）
- ※ 条件面の違いはあるが、管内4町との比較で、乳量及び飼養頭数の増加の可能性がある
 - ↳ 農業経営者の減少が予想される中、農業生産額を確保するため効率を高める



5 【漁業】・・・就業者の高齢化

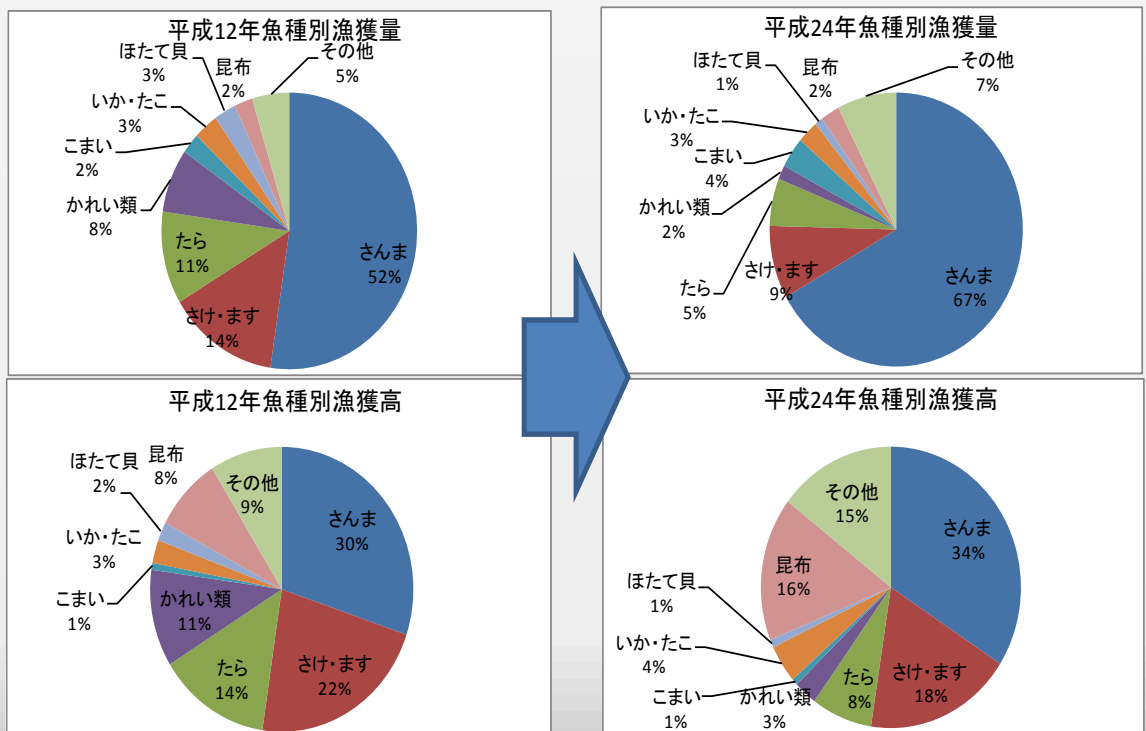
○ 漁獲の推移（北海道水産現勢）

- ・ 漁獲量は増減を繰り返しながらも10万tで推移。
- ・ 漁獲高は、増減幅が大きく推移しながら減少傾向 ⇒ 変動要因（漁獲量及び市場価格）
- ・ 漁獲数量に変化が少ないものの金額は減少
↳ 減少した魚種を他の魚種で補い数量を確保 ⇒ 漁獲魚種の変更



○ 魚種内訳

- ・ 魚類が数量の9割近くを占めるのに対し金額は7割程度
 - ・ 平成12年と平成24年の比較でさんまの割合が増大
↳ 一方、他の魚種が減少し、そのことが漁獲高にも影響を与えている
- ※ さんまの数量確保はもちろん、他の単価の高い魚種の確保が重要となる



第1章 根室市の経済状況

○ 漁業就業者（国勢調査）

- ・ 20年間で4割減少（ただしH17-22 役員及び雇人ある業主は増、雇用者は微減）
- ・ 雇用のない業主及び家族従業員のほか雇用者も大きく減少
 - ↳ 漁家減少に加え、法人の小規模化が伺える

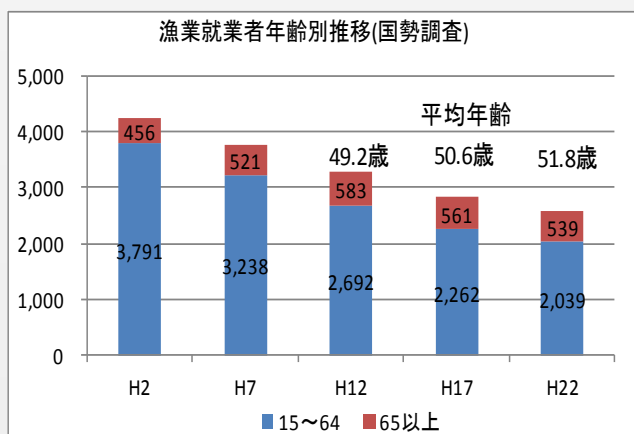
○【国勢調査：就業者数：漁業：総数】

	H2	H7	H12	H17	H22	H2/H22
雇用者	1,188	993	761	657	626	-47.31%
役員	90	70	49	48	60	-33.33%
雇人のある業主	312	301	288	262	305	-2.24%
雇人のない業主	751	650	590	529	408	-45.67%
家族従業者	1,906	1,745	1,587	1,327	1,178	-38.20%
総数	4,247	3,759	3,275	2,823	2,578	-39.30%

○ 就業者年齢（国勢調査）

- ・ 漁業就業者は65歳以上の高齢就業者が特に多い業種
 - ↳ 平成22年には、高齢就業者率が20%超となる
- ・ 高齢就業者数は平成12年以降減少しているが、平均年齢は上がり続けている
 - ↳ 平均年齢が51.8歳となり農業を上回り市内産業で一番高くなった
- ・ 平成22年には就業者が一番多い世代が50歳代に移行
 - ↳ 50歳未満より50歳以上の就業者数が多くなる
- ・ ほぼ全ての世代で減少しているが、特に若い世代での減少率が高い
 - ↳ 就業者の減少及び高齢化は今後も進行するものと予想される

※ 就業者の減少は生産力の低下に繋がり、基幹産業の基礎である漁獲量の確保に影響する



【産業別就業者数(H22国勢調査)】

	総数	15~64歳	65歳以上	平均年齢
農林業	380	295	85	51.7
漁業	2,578	2,039	539	51.8
建設業	869	766	103	49.7
製造業	2,770	2,418	352	47.3
卸小売	2,166	1,930	236	47.1
宿泊飲食	767	655	112	49.0
医療福祉	1,031	986	45	44.5

○【年齢別漁業就業者数(国勢調査)】

年度	総数	15~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳超	50歳未満	50歳以上
平成2年	4,247	714	927	872	949	577	182	26	2,513	1,734
平成12年	3,275	409	539	764	688	566	274	35	1,712	1,563
平成22年	2,578	294	351	462	652	476	270	73	1,107	1,471

第1章 根室市の経済状況

6 【製造業】・・・最も就業者が多い産業

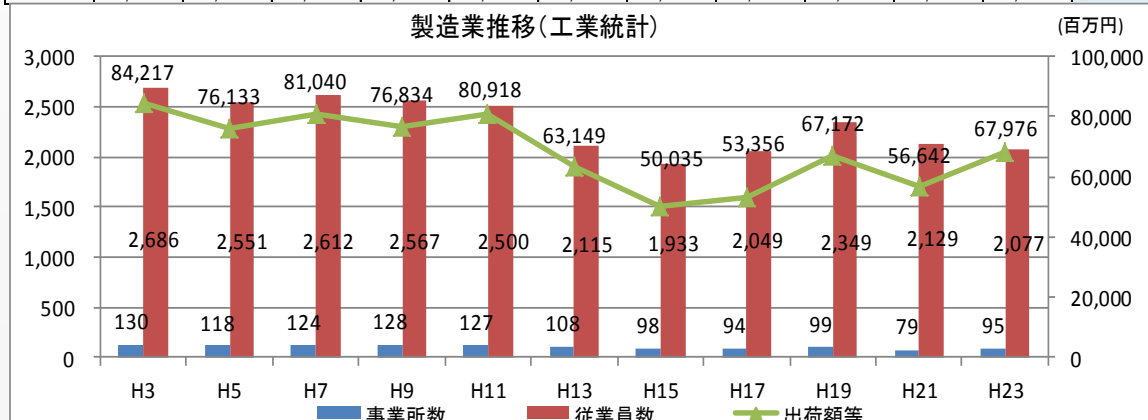
○ 工業統計推移（4名以上の事業所）

- ・ 平成11年以降全ての面で大きく減少 ⇒ その後も平成11年以前までは回復せず（平成15年：事業所100社割れ、従業員数2千人割れ、出荷額500億円まで減少）
- ・ 従業員数と出荷額は同様に増減 ⇒ （出荷額の増加が従業員数の増加に繋がる）

【工業統計】

(所,人,百万円)

	H3	H5	H7	H9	H11	H13	H15	H17	H19	H21	H23	H3-H23
事業所数	130	118	124	128	127	108	98	94	99	79	95	-26.92%
従業員数	2,686	2,551	2,612	2,567	2,500	2,115	1,933	2,049	2,349	2,129	2,077	-22.67%
出荷額等	84,217	76,133	81,040	76,834	80,918	63,149	50,035	53,356	67,172	56,642	67,976	-19.28%

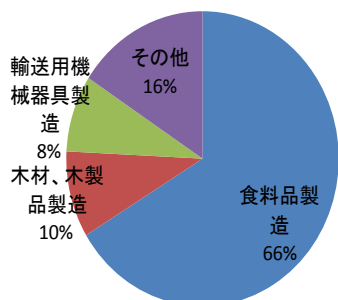


○ 製造業事業所内訳（4名以上の事業所数）

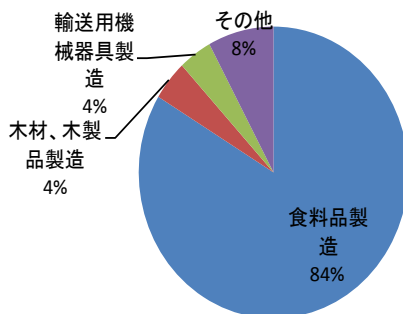
- ・ 食料品製造業が約3分の2以上 ⇒ 事業所66%、従業員数84%、出荷額93%
- ・ 特に水産食料品製造業が多く、従業員規模が多い事業所ほどその傾向は高くなる。

↳ 30名以上の食料品製造業のほとんどが水産食料品

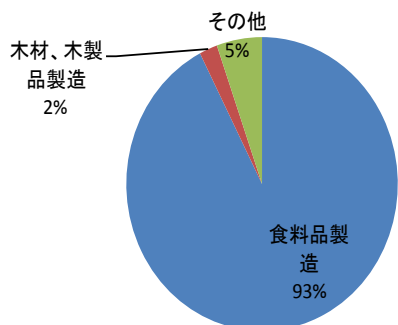
製造業事業所種別(H23工業統計)



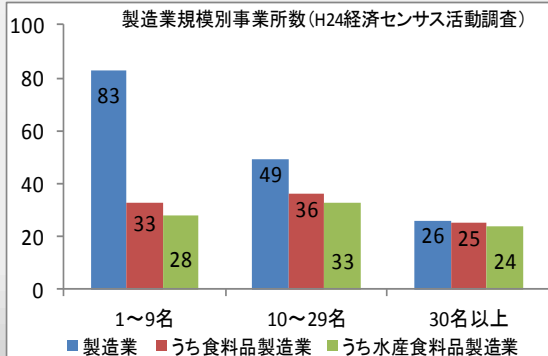
製造業従業員種別H23工業統計)



製造業出荷額種別(H23工業統計)



製造業規模別事業所数(H24経済センサス活動調査)



第1章 根室市の経済状況

○ 就業者

- ・ 製造業は平成17年以降、就業者が一番多い産業となり、また、女性就業者が一番多い産業
↳ 当市の基幹産業のひとつであり、重要な雇用の受入先
- ※ しかしながら慢性的な人手不足にあり、特に繁忙期の労働力確保が課題

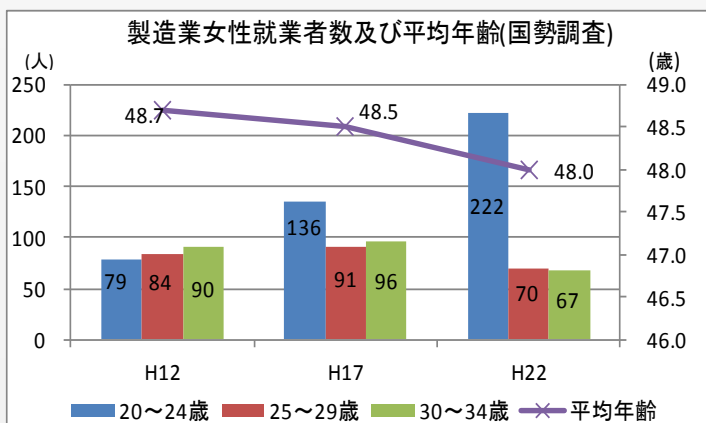
【業種別就業人口(国勢調査)】

	平成12年			平成17年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
漁業	3,275	2,049	1,226	2,823	1,765	1,058	2,578	1,658	920
製造業	3,109	1,332	1,777	2,978	1,235	1,743	2,770	1,093	1,677
卸小売業	3,377	1,576	1,801	2,319	1,120	1,199	2,166	1,139	1,027

※卸小売業についてはH12のみ飲食店含む。

○ 製造業女性就業者

- ・ 女性就業者の内訳 ⇒ 20代前半が増加 ⇒ 平均年齢が僅かであるが下がってきている
- ・ ただし、多いのは20代前半のみ ⇒ それ以降の若い世代の就業者数は減少
↳ 増加分は外国人研修によるものと考えられる
- ※ 人手不足を外国人研修生で補っているが、最長3年の期間があり、その後の世代に続かない

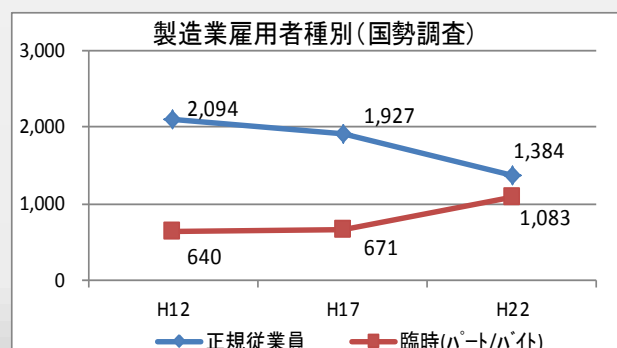


【製造業年代別女性就業者数(国勢調査)】

年代別	20~24歳	25~29歳	30~34歳	平均年齢
H12	79	84	90	48.7
H17	136	91	96	48.5
H22	222	70	67	48.0

○ 雇用形態

- ・ 雇用形態の変化 ⇒ 正規従業員が減少する一方で臨時職員が増加（全産業共通事項）
- ・ 社会情勢による変化であるが、平成17年から22年の変動幅が加速している
- ※ 個別案件により違いがあるが、臨時職員の増加は地元定着へのマイナス要因となる



○【製造業雇用者種別(国勢調査)】

雇用者種別	H12	H17	H22	増減率
正規従業員	2,094	1,927	1,384	-33.91%
臨時(パート/アルバイト)	640	671	1,083	69.22%
臨時割合率	23.41%	25.83%	43.90%	

第1章 根室市の経済状況

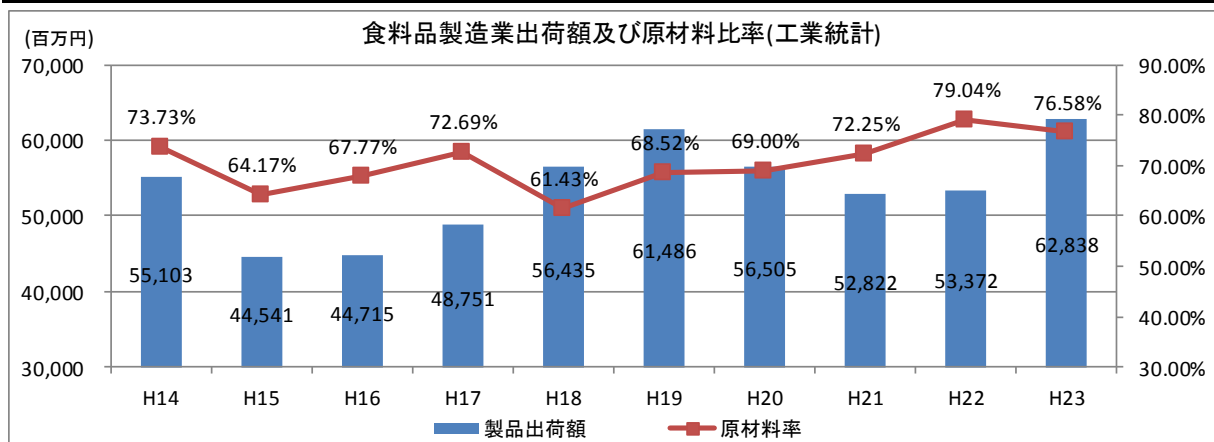
○ 製品出荷額

- ・ 増減はあるものの製品出荷額は、平成18年以降は500億円以上となっている
- ・ 平成18年に一度下がったが、それ以降は原材料率が出荷額の増減に関係なく増加傾向
↳ 原材料費が高騰する中、製品に転嫁できていない状況が伺える

【工業統計(食品製造業)】

[所.人.百万円(1人当給与:万円)]

食品製造業	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
事業所数	68	64	58	63	64	64	61	54	53	63
従業員数	1,669	1,553	1,575	1,709	2,012	1,942	1,930	1,837	1,769	1,738
現金給与総額	4,502	4,376	4,125	4,386	5,060	5,191	4,770	4,629	4,652	4,651
原材料費	40,628	28,582	30,301	35,435	34,670	42,132	38,990	38,165	42,188	48,122
製品出荷額	55,103	44,541	44,715	48,751	56,435	61,486	56,505	52,822	53,372	62,838
粗付加価値額	13,818	15,205	13,737	12,710	20,837	18,458	16,763	13,972	10,670	14,200
1人当給与	269.72	281.80	261.90	256.67	251.50	267.29	247.13	251.97	262.98	267.61
原材料率	73.73%	64.17%	67.77%	72.69%	61.43%	68.52%	69.00%	72.25%	79.04%	76.58%
付加価値率	25.08%	34.14%	30.72%	26.07%	36.92%	30.02%	29.67%	26.45%	19.99%	22.60%



○ 道内水産加工都市との比較 (平成24経済センサスによる抽出)

- ・ 根室市の水産食料品製造業従業員数は2,285人で、函館市について2番目に多い
- ・ 食料品製造業に占める水産食料品製造業の従業員割合は95.17%と最も割合が高い
↳ 道内他市と比較して水産加工業が高く主要産業であることが伺える

○ 工業統計調査項目比較 (下表8市H14~23年調査10年間の平均値) ※北斗市は6年平均

- ・ 食料品製造業の出荷額では、函館市、釧路市に次いで3番目
- ・ 一人当の給与は261.9万円で、紋別市、網走市に次いで道内3番目 (全道平均245.8万円)
- ・ 付加価値率では、北斗市、函館市、留萌市に次いで道内4番目の28.17%
↳ 近年減少傾向 H18は36.92%がH22は19.99%となっている。(原材料の高騰)

【H24経済センサス-活動調査(産業横断的集計)】

根室市	製造業	食料品	水産食料品	食品/水産
事業所	158	94	85	90.43%
従業員数	2,880	2,401	2,285	95.17%

【※水産食料品製造業(092)従業員500人以上かつ食料品製造業(09)に対する比率が50%以上の道内市】

	函館市	根室市	釧路市	稚内市	紋別市	北斗市	留萌市	網走市
従業員数	3,554	2,285	1,949	1,389	1,269	1,164	779	603
食品/水産	64.74%	95.17%	73.05%	86.98%	92.16%	69.74%	94.54%	54.47%

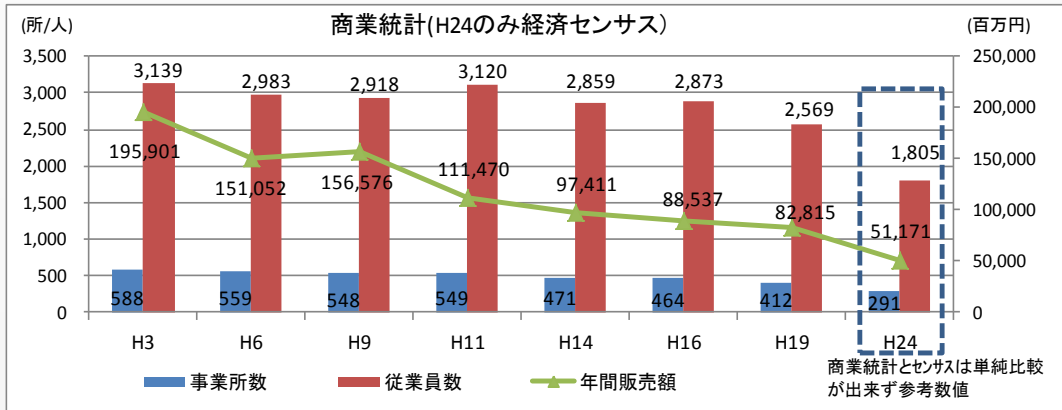
7 【商業】・・・市内産業の中で減少率が最も高い

- 平成3年と平成19年の対比 ⇒ 年間販売額が大きく減少 ⇒ (経済規模の縮小)
(事業所数29.93%減、従業員数18.16%減、**販売額57.73%減**)
- ※ 小売店などのサービス業は市民及び市内企業を対象とした域内産業
↳ 人口減少や市内経済規模縮小の影響を最も受けていると考えられる

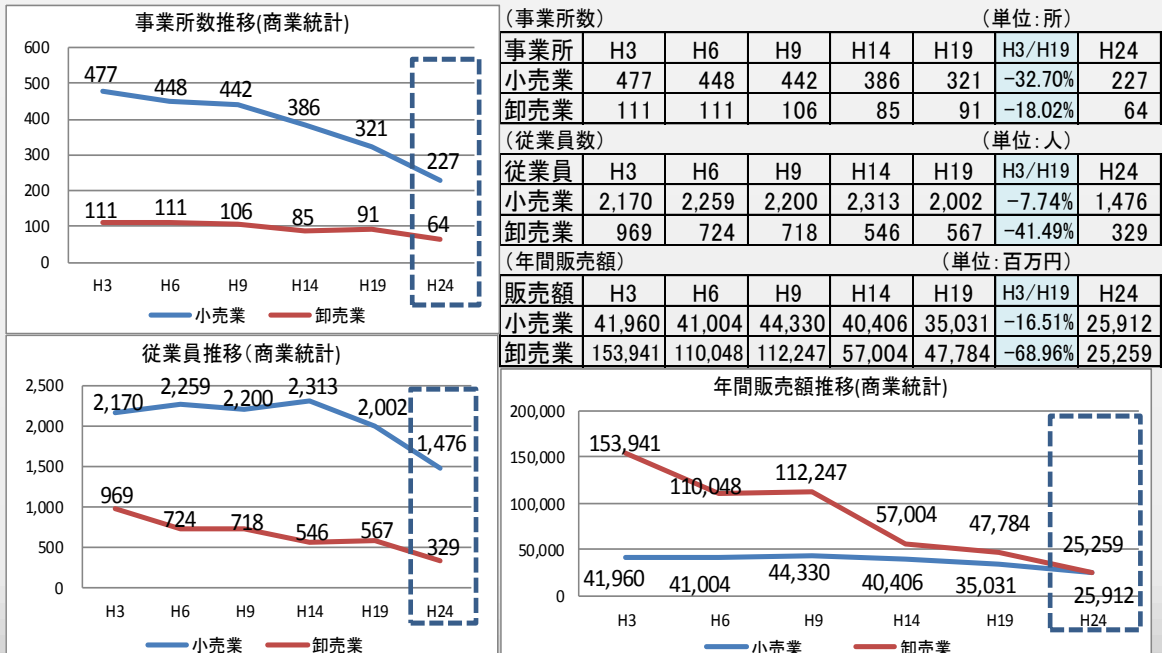
○【商業統計:卸売業及び小売業】+H24経済センサ活動調査 (単位:所、人、百万円) 参考地(H24センサ)

卸/小売	H3	H6	H9	H11	H14	H16	H19	H3/H19	産業別集計	産業横断
事業所数	588	559	548	549	471	464	412	-29.93%	291	356
従業員数	3,139	2,983	2,918	3,120	2,859	2,873	2,569	-18.16%	1,805	2,393
年間販売額	195,901	151,052	156,576	111,470	97,411	88,537	82,815	-57.73%	51,171	—

※経済センサ活動調査は産業別集計(卸売業小売業)の数値と旧事業所・企業統計調査にあたる産業横断の数値がある。



- 小売業 ⇒ **事業所数32.70%減** > 従業員数7.74%減 ⇒ (大規模化)
- 卸売業 ⇒ 事業所数18.02%減 < 従業員数41.49%減 ⇒ (小規模化)
- 販売額 ⇒ 小売業16.51%減、卸売業68.96%減
- ※ 減少の要因は様々あるが、次の関連性があると考えられる
↳ 小売事業所数減少 ⇒ 卸売業販売額減少 ⇒ 卸売業従業員減少



第1章 根室市の経済状況

- 平成3年と平成19年の対比で176事業所減 ⇒ 従業員規模の少ない事業所が減少
 - ・ 減少数の約9割が4人までの事業所に集中 ⇒ (家族経営の個人商店などが減少)

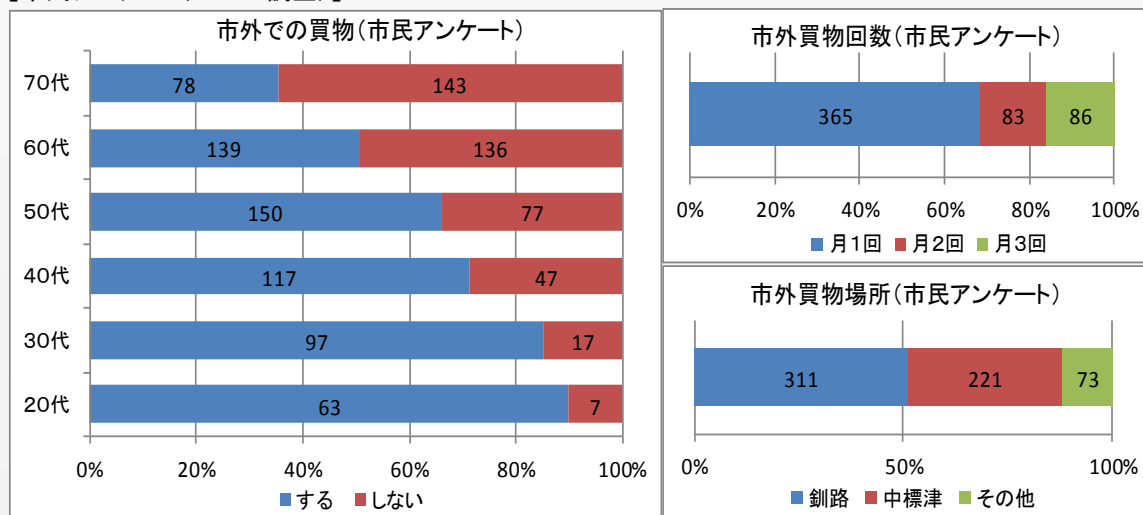
○【商業統計:従業員規模事業所数】

規模	H3	H6	H9	H14	H16	H19	減少数	H24
0~4人	413	379	376	297	289	255	158	211
5~9人	108	112	109	98	100	91	17	78
10~19人	46	48	44	57	55	45	1	49
20~29人	12	14	10	11	11	13	-1	10
30人以上	9	6	9	8	9	8	1	8
合計	588	559	548	471	464	412	176	356

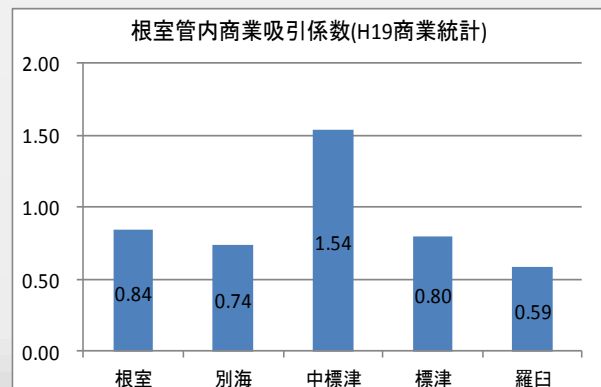
※H24は経済センサス産業横断の数値を使用で参考値

- 平成24年11月調査 (市外での買物)
 - ・ 約6割が市外で買物すると回答 ⇒ 若い世代ほど市外での買物率は高い
 - ・ 市外での買物回数 ⇒ 3割以上が月に2回以上市外で買物している
 - ・ 市外買物先 ⇒ 釧路と中標津で約9割 ⇒ 近郊商業地に流出している

【市民アンケート(H24.11調査)】



- 根室管内における購買力の流出
 - ・ 中標津町が管内市町の購買力を吸収 ⇒ 根室市の購買力も中標津へ流出
 - ※ 上記アンケートでは、釧路市への買物の方が多い
 - ↳ 実際には下記図以上の流出があると想定

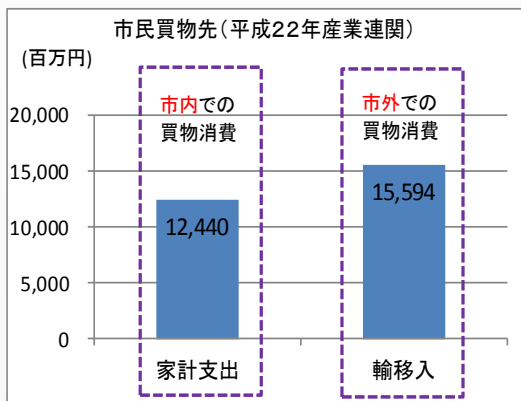


※商業吸引係数
 ・比較する地域の住民1人当たりの購買力が同じであると仮定すると、各地域の小売販売額は人口の比率と同じになります。
 「小売販売額の比率/人口の比率」を商業吸引係数と言ひ、購買力が地元で消費されている場合は1
 ・1よりも小さければ購買力が他に吸われている(流出している)
 ・1よりも大きければ他の地域の購買力を吸引している(流入している)

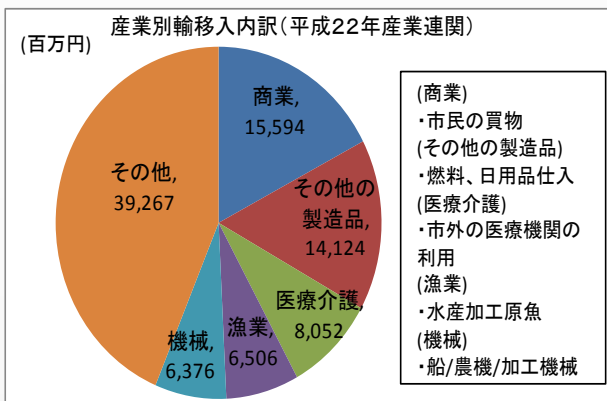
○根室市の購買力は中標津町に流出している。

○ 根室市の購買力の流出（平成22年根室市産業連関）

- ・ 推計値であるが市民の市外買物消費額は156億円 ⇒ 市内買物消費額より多い
 ↳ 市内で調達出来ないものもあるが、条件面から市外で消費するケースもある
- ・ 輸移入については、市民の買物のほか、市外の医療機関等の利用も多い



※平成22年根室市産業連関表「商業」に基づく推計値



※輸移入(市外から購入)

8 【観光】・・・イベントに集中した入込で宿泊客が少ない

○ 観光入込客数

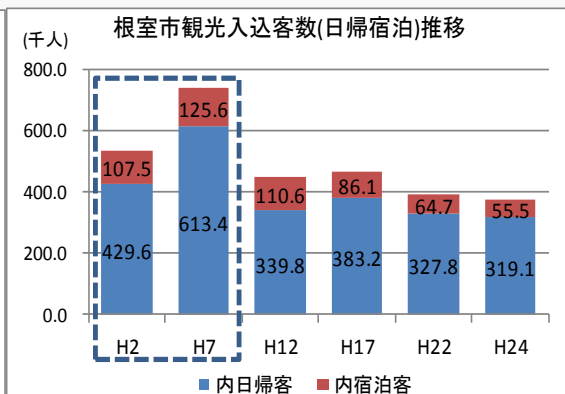
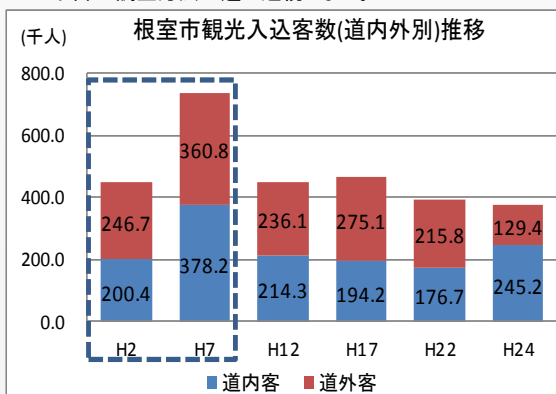
- ・ 観光客の構成比で道外客が多い（道内客の方が多かった年は、H3,5,7,13年と震災以降）
 <平成24年北海道全体の構成比は87.8%が道内客>
- ・ 道外客が多い自治体は約20市町村程度
 ↳ 函館市や洞爺湖町など観光地や温泉地のほか、道北や道東方面が多い
 ↳ 札幌圏から遠く道内客が少ない地域とも言える

○【観光入込客数】

(単位:千人)

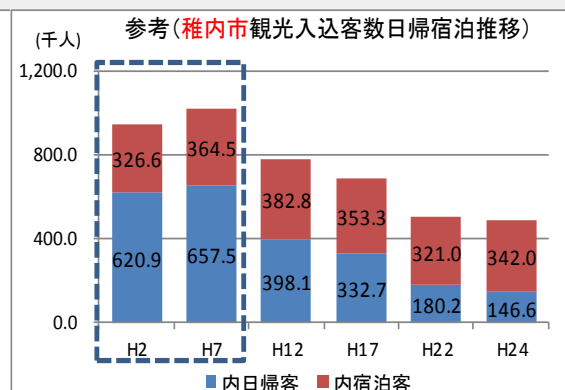
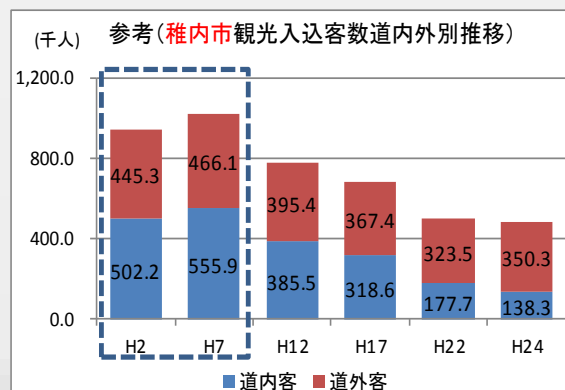
区分	H2	H7	H12	H17	H22	H24
道外客	246.7	360.8	236.1	275.1	215.8	129.4
道内客	200.4	378.2	214.3	194.2	176.7	245.2
内日帰客	429.6	613.4	339.8	383.2	327.8	319.1
内宿泊客	107.5	125.6	110.6	86.1	64.7	55.5
宿泊客延数	107.5	125.6	142.6	102.2	76.1	78.4
入込総数	537.1	739.0	450.4	469.3	392.5	374.6

※H8以降は調査方法が違い連続しない。



○ 宿泊客数

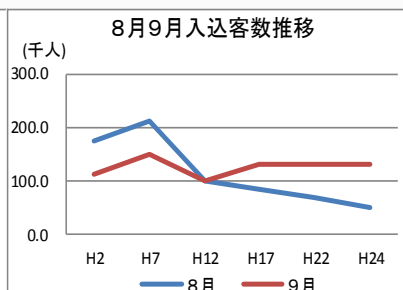
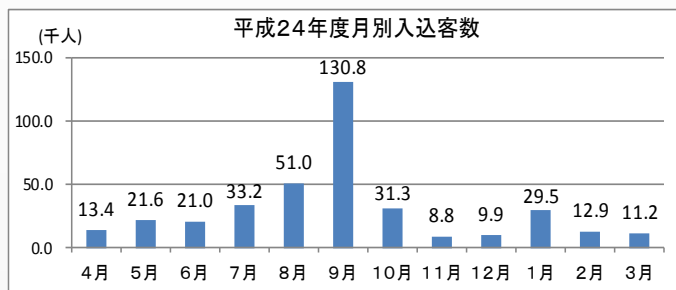
- ・ 道外客に比較し、宿泊客が少ない
- ・ 根室市と同様に道内の端にある稚内市も道外客の方が多い地域。
 ↳ ただし、宿泊客も多い地域であり、概ね道外客と同様な比率
 (稚内市は離島への港もあり、近隣に都市や温泉地がなく宿泊率が高いと思われるが、)
 ※ 根室市については、根釧管内の他都市や温泉地に流出しているものと考えられる



第1章 根室市の経済状況

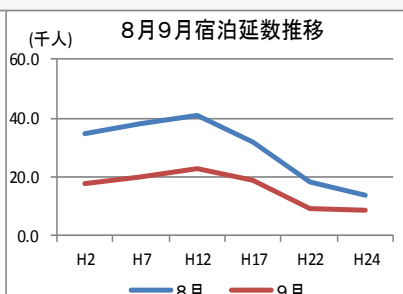
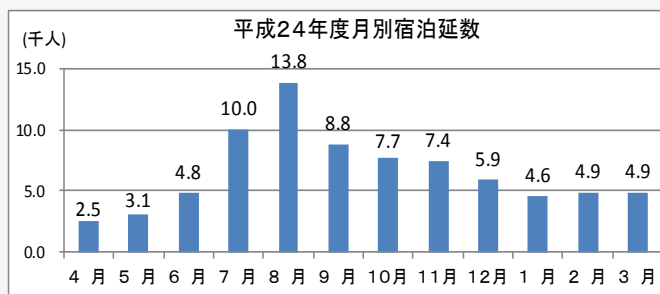
○ 月別観光入込

- 根室市の観光入込は8～9月に集中 ⇒ この2月で年間の約5割を占める
- 9月が飛び抜けて多く年間の約35% ⇒ かに祭やさんま祭などのイベント効果
(野外イベントの集客は、天候に左右され、年によりバラつきがある)
- 月別入込で9月が多くなったのは、平成14年からで、それまでは8月が多かった
↳ 9月の増加より8月の減少が大きい



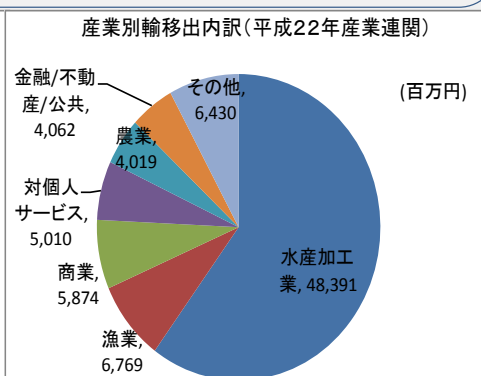
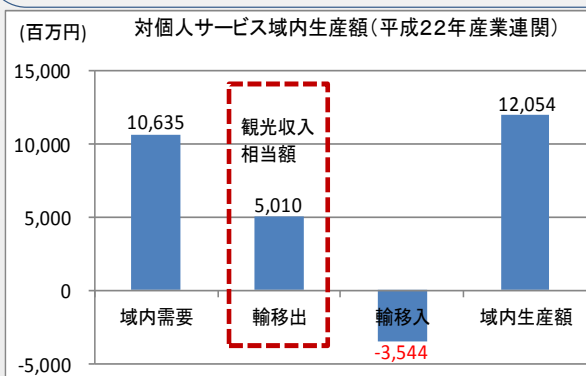
○ 月別宿泊者数

- 宿泊については8月の方が多く、次いで7月の、9月の順
- 入込に対し9月の宿泊が少ない ⇒ 9月の入込はイベントに集中
- ※ 宿泊客増のためには、イベント以外の手法も検討する必要がある



○ 観光収入相当額 (平成22年根室市産業連関表)

- 日本標準産業分類には「観光業」はなく、次のとおり想定
概ね「宿泊、飲食、娯楽」といった対個人サービス業のうち、域外に対する部分
- 対個人サービス業の輸移出 (域外への需要) は約50億
- ※ 輸移出額の50億は、水産加工業、漁業、商業に次ぐ額
↳ 域外からの収益獲得できる重要な産業となっている



※観光収入相当額は参考数値であり、実際には商業の一部など、他の業種にも相当額がある。

第2章 主要産業分析

1. 事業所数(大分類):第3次産業の業種が上位を占め、製造業・建設業の第2次産業が続く。



2. 事業所数(中分類):飲食店が231事業所と最も多く、第3次産業の事業所が上位を占める。



第2章 主要産業分析

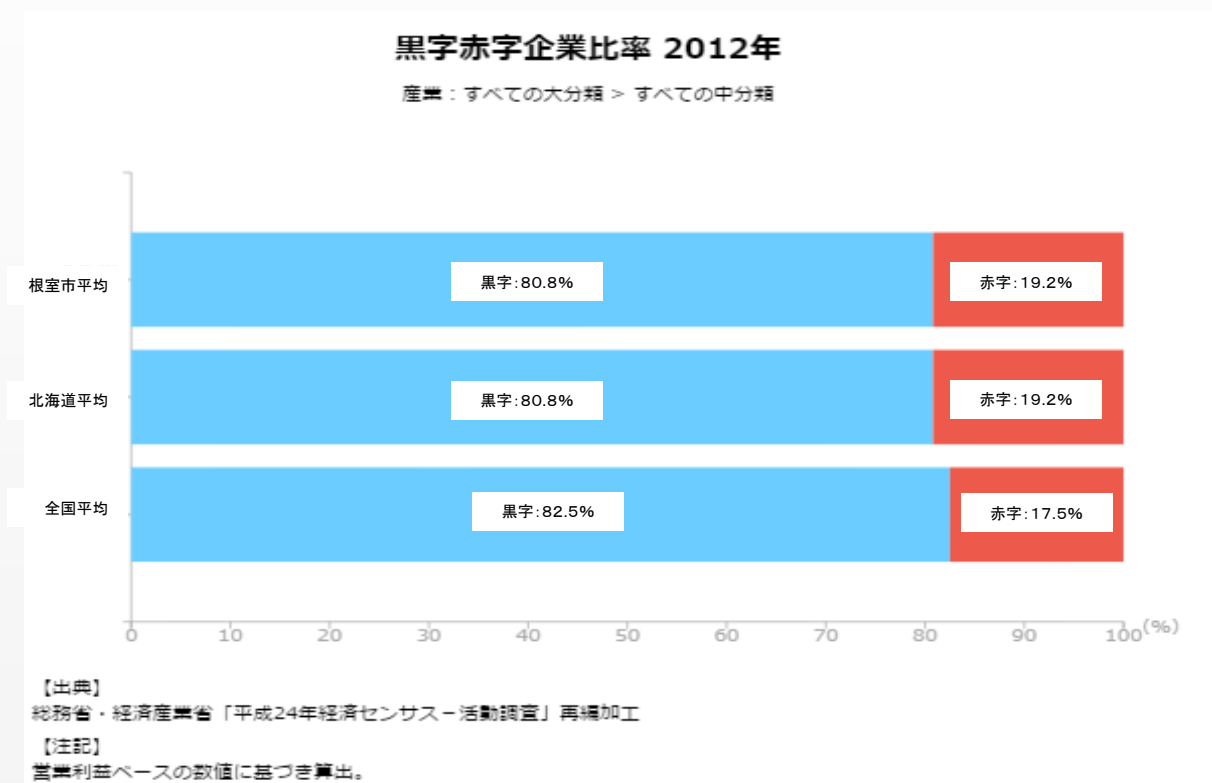
3. 売上高(企業単位): 食料品製造業が約767億で全体の約44%を占め、売上高の面では市内の中心産業となっている。なお、取引流入額についても食料品製造業が最も多く、根室市域外から資金を最も多く獲得している。



4. 付加価値額(企業単位): 食料品製造業が最も高く、事業所数が最も多い飲食店は6位となっている。
【付加価値額=売上高-費用総額(売上原価+販売費及び一般管理費)+給与総額+租税公課】



5. 黒字赤字企業比率:北海道平均とは同様の割合となっているが、全国平均と比べると黒字企業が若干少ない状況となっている。



6. 道内同規模市町との産業比較

No.	市町名	人口(人)	企業数(社)	従業者数(人)	売上高	付加価値額	取引流入額	事業所数 (社)	従業者数 (事業所単位)	売上高が最も多い業種	
					企業単位(億円)	企業単位(億円)	企業単位(億円)			業種(中分類)	売上高(億円)
1	稚内市	39,595	1,554	12,160	1,812	404	304	2,046	15,141	総合工事業	279
2	名寄市	30,591	1,101	8,699	898	230	80	1,463	10,074	その他小売業	87
3	根室市	29,196	1,239	9,993	1,724	287	314	1,519	10,866	食料品製造業	767
4	七飯町	28,453	684	6,754	802	221	87	857	6,990	総合工事業	77
5	幕別町	26,543	728	6,171	734	155	151	941	7,854	協同組合	149
6	美幌市	26,015	832	6,343	598	167	135	1,043	7,731	総合工事業	94
7	新ひだか町	25,419	957	6,700	743	189	147	1,237	8,700	総合工事業	89
8	紋別市	24,732	1,033	7,636	927	195	131	1,325	9,732	食料品製造業	277
9	留萌市	24,457	944	7,943	980	222	111	1,233	8,555	総合工事業	176
10	富良野市	24,258	895	6,719	924	213	139	1,184	6,564	総合工事業	122
11	中標津町	23,966	1,029	7,945	948	243	237	1,382	10,091	総合工事業	135
12	深川市	23,707	836	7,208	735	236	87	1,071	8,070	協同組合	128
13	遠軽町	22,260	749	5,491	588	174	112	975	7,138	総合工事業	74
14	士別市	21,787	986	6,082	765	203	108	1,210	7,426	総合工事業	120
15	美幌町	21,573	727	4,953	611	150	93	900	6,754	食料品製造業	95
16	余市町	21,258	749	6,094	606	167	69	925	6,983	飲食品小売業	132
17	釧路町	20,514	658	5,514	638	148	323	972	8,923	職別工事業	55

※道内の市町村で人口が2~3万人台の17市町村により比較

1位

2位

3位

1. 従業者数(事業所単位): 従業者数は食料品製造業2,401人と最も多く、雇用の面でも食料品製造業が根室市産業の中心となっている。

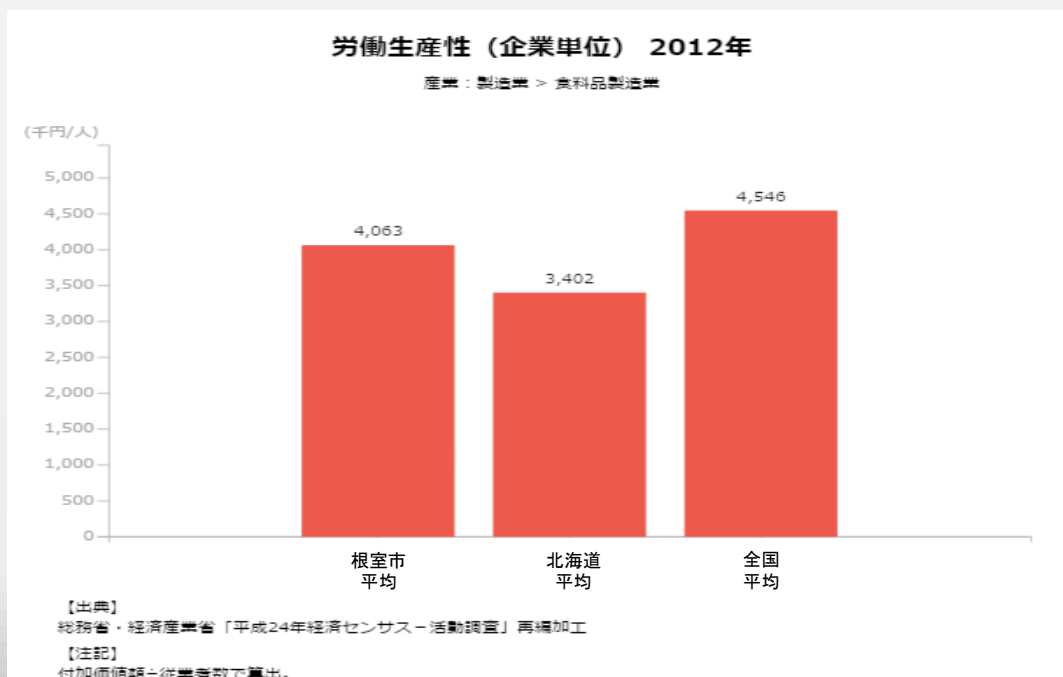


2. 労働生産性(企業単位): 食料品製造業における労働生産性は、全国・北海道平均と比較しても高い生産性を有しており、1人当たり4,063千円となっている。なお、根室市の食料品製造業の従業者特化係数は1.42であり従業者集積度は高く、働く場の中心となっている。

※特化係数(従業者) 構成比26.4%÷全国構成比18.5%=1.42

(自地域の構成比率を全国の構成比で除した値、その値が1以上であれば

自地域に当該産業が集積していることを示す)



3. 根室市の平均所得【道内市町村との比較】

道内自治体の平均所得と順位（H25、道内35市）

道内市順位	順位		自治体	平均所得 (千円)
	道内(179)	全国		
1	18	376	札幌市	3,022
2	20	383	網走市	3,018
3	22	389	紋別市	3,009
4	33	520	稚内市	2,881
5	36	541	室蘭市	2,861
6	45	597	帯広市	2,828
7	55	695	北広島市	2,770
8	56	705	根室市	2,766
9	58	708	千歳市	2,761
10	63	726	苫小牧市	2,751
11	68	786	江別市	2,724
12	72	797	士別市	2,719
13	74	799	北見市	2,718
14	75	801	名寄市	2,717
15	78	823	函館市	2,706
16	80	830	恵庭市	2,701
17	85	871	旭川市	2,683
18	90	901	釧路市	2,662
19	92	908	砂川市	2,657
20	97	940	富良野市	2,638
21	106	984	滝川市	2,616
22	108	992	留萌市	2,611
23	109	998	岩見沢市	2,609
24	113	1011	伊達市	2,599
25	132	1125	深川市	2,546
26	136	1165	石狩市	2,533
27	143	1224	登別市	2,508
28	151	1291	小樽市	2,479
29	152	1301	北斗町	2,474
30	157	1346	美唄市	2,448
31	172	1620	赤平市	2,267
32	173	1634	芦別市	2,260
33	176	1684	三笠市	2,206
34	177	1722	夕張市	2,137
35	178	1724	歌志内市	2,128
			平均	2,629

(資料: 毎日新聞)

根釧自治体の平均所得と順位（H25年）

根釧市町村 順位	順位		自治体	平均所得 (千円)
	道内	全国		
1	10	224	標津町	3,209
2	12	259	別海町	3,161
3	13	280	羅臼町	3,131
4	21	384	鶴居村	3,016
5	26	476	標茶町	2,914
6	30	499	浜中町	2,901
7	37	558	厚岸町	2,851
8	56	705	根室市	2,766
9	57	706	中標津町	2,763
10	90	901	釧路市	2,662
12	104	980	弟子屈町	2,617
13	138	1179	釧路町	2,527
14	168	1486	白糠町	2,365
			平均	2,837

(資料: 毎日新聞)

根室市の平均所得は、2,766千円であり、根室市を除く道内34市と比較すると所得が多い状況となっている。第一次産業が盛んであることと、総人口に対して公務従事者が多いことが要因と考えられる。平均所得は高いが消費が市外に流出していることから、域内循環が少ない現状にある。

この平均所得は第一次産業が盛んな市町村が上位になる傾向があり、根室・釧路管内の各市町村と比較すると13市町村中8位と中に位置している。

【参考】

全国自治体1741市区町村の平均所得は3,274千円、道内自治体数は179市町村、平均所得は2,724千円。道内各市町村の大部分は全国平均を下回る。

道内の第1位は宗谷郡猿払村で、漁業(ホタテ漁)が好調、道内下位には旧産炭地が多い。

全国1位は東京都港区(平均所得12,667千円)で株の譲渡益が全国で最も多い。